



案ずるより産むがやすし

中国中央病院
産婦人科病棟
2022年12月号
Vol 295

師走に入り、寒さも本格的になってまいりました。体調を崩さないように手洗いうがいをを行い、身体を冷やさないようにお過ごしください。今回は、新生児マススクリーニングの検査についてお話しします。

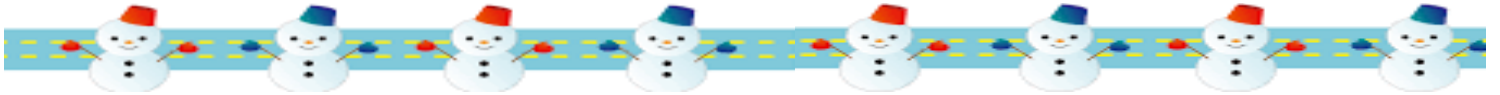


令和4年度7月から新生児マススクリーニング検査に新しい項目が追加されました

生まれてきた赤ちゃんは、ある種の酵素が不足しておこる先天性代謝異常やホルモン分泌の異常がある可能性があります。これにより、心身の成長・発達に影響や生命の危険を伴う病気が隠れていることがあります。

新生児マススクリーニング検査は、先天性代謝異常となる20疾患の早期発見・早期治療のために採血を行う検査で、哺乳力が確立した生後4日目～6日目に行います。広島県では、令和4年度7月より新たに3疾患が追加され、検査できるようになりました。この3疾患の検査は、従来の新生児マススクリーニング検査の採血によりできるので、赤ちゃんへの体の負担はありません。

当院では公費負担ですが、血液採取料が別途かかります。追加の項目の検査は、令和4年度は無料ですが、令和5年度から有料に移行する予定です。検査について、妊娠後期と入院中に医師よりご案内させていただきます。



今までの新生児マススクリーニング検査で発見できる病気

●アミノ酸の代謝異常症

毒性のアミノ酸の蓄積あるいはアミノ酸の欠乏が起きることで脳や肝臓、腎臓などに臓器障害をおこす。

●有機酸の代謝異常症：

有害な酸が蓄積し、血液・体液が酸性に傾き、活気・哺乳力の低下、嘔吐などの症状が出る。

●脂肪酸の代謝異常症

ブドウ糖の供給が足りない時、代替りのエネルギー源となる脂肪酸を使用できないことで起きる。冷や汗などの低血糖症状や重症化すると意識障害、けいれん発作などがおこる。

●その他

糖分がうまく分解できず、嘔吐・下痢・黄疸や白内障などが起きる。生まれつき甲状腺がないことや小さいことで、甲状腺のホルモンが不足し、体の成長や知能の発達に影響が出る。副腎の機能が生まれつき低下しており、副腎皮質ホルモンが不足した状態で、活気がない。体重が増えない、哺乳力がないなどの症状がでる。

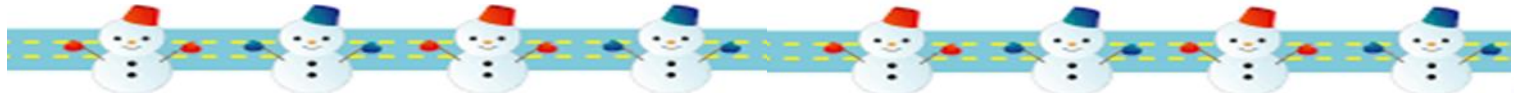
今回追加された検査で発見できる病気

●脊髄性筋萎縮症

運動発達がとまるなどの症状がでる。

●原発性免疫不全症、B細胞欠損症

免疫に異常があり、感染症を繰り返し重症化することもある。



検査の結果は生後1か月健診時に小児科でご説明します。再検査が必要な場合は早めにご連絡をします。詳細は広島県のホームページをご参照ください。
広島県 新生児マススクリーニング(先天性代謝異常などの検査)について
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/248/sennten.html>



担当 内方

母親学級のお知らせ

時間：13:30～ 場所：講堂 AB 定員：6名

日程：12月7日(前期) 12月14日(後期)

12月28日(後期)

1月4日(前期) 1月11日(後期)

1月25日(後期)



参加希望の方は産婦人科外来の予約用紙に名前を記入してください。キャンセルの場合は産婦人科外来にご連絡ください。(病棟案内は行っておりません。ご了承ください。)